「官民パートナーシップ研究会」

The Official Portal of The City of Towada
十和田市

元気日本
POWERFUL JAPAN
元気な日本をつくる会

PARTNER

Since 2010.10

世帯数：26,968**世帯**
総人口：65,661**人**
（H24．1月末現在）

奥入瀬渓流 ・ 十和田湖
十和田市現代美術館･バラ焼き ・ にんにく

【 STEP 1 】　2010年10月14日

「官民パートナーシップ研究会」にて十和田市の概要と課題の説明。
強みと弱みを小山田市長にプレゼンしていただきました

【特徴】

・現代美術館を拠点とした、アートによる街づくり。
・東北新幹線全線開業から、より一層の交流人口増を期待。
・基幹産業は、農業と観光。
・農業では、日本一健康な土づくりとミネラル野菜の生産を中心に、にんにくの生産量が全国一位。

【課題】

・規格外野菜に関しては取り扱いが乏しく収入にならない。
・観光は十和田湖をメインにしているが交流人口が増えない。

【 STEP 2 】 2010年12月5日～6日

まずは100聞は一見にしかず！ In 十和田

現地視察と意見交換会を実施。

【 STEP 3 】　2011年5月11日

第2回　現地視察と意見交換会 in 十和田

何を何処から着手すれば効果が出るか焦点を絞れない期間がありました。

会員のエムズ･ファクトリー株式会社　前田社長がプロジェクトリーダーになりました。

【 STEP 4 】　2011年5月26日

考え方の「ベクトル」を互いに探すことで一致。信頼関係ができた。
まずは、一緒に意見交換を継続して新しい取り組みに挑戦しよう！

「地域資源活用モデルプランニング」の業務委託契約を締結。

【 STEP 5 】　2011年7月12日～13日

第3回　意見交換会 in 十和田

観光･商業･農業･雇用創出などがあったが、まずは、「十和田市」の知名度を向上させる為の発信力強化を図るという事に絞り込み、中でも日本一の生産量を誇るにんにくを中心として取り掛かることにした。

The Official Portal of The City of Towada
十和田市

POWERFUL JAPAN
元気な日本をつくる会

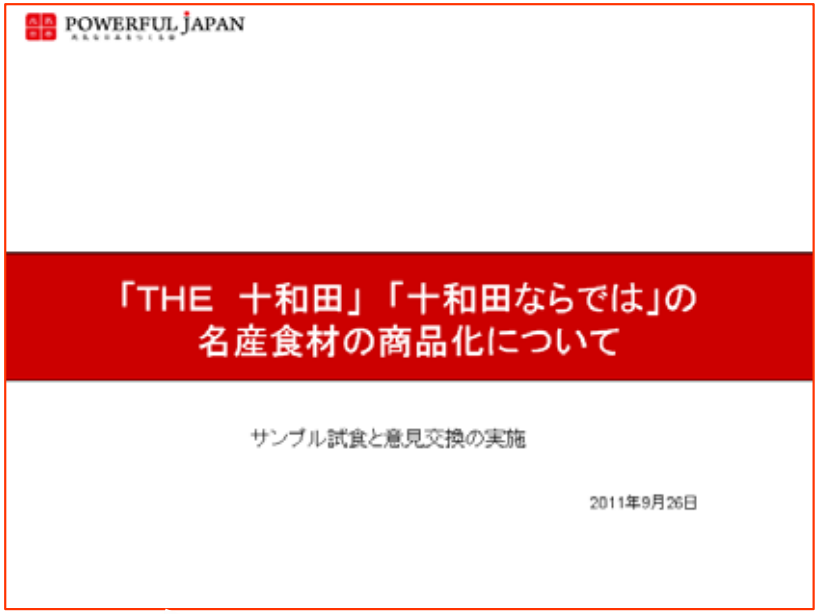
【 STEP 6 】　2011年9月25日～26日

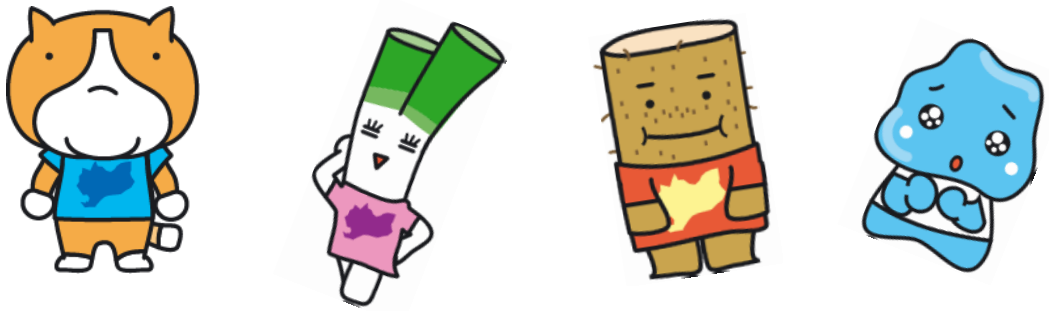
第4回　意見交換会と試食会　in 十和田

ありふれたにんにくではなく、「新しいにんにく料理」を提案、試食品を作成。
普及活動のためのキャラクター投入をするためにデザインも提出。提案。

★ *話題性のある「シェフ　南極地域観測隊　島田　剛」とのコーディネイト！*

十和田産「にんにく」を使い『新メニュー』を開発。
「十和田の『アレ』が食べたい！買いたい！」の
欲求を膨張させるために行う名産品への戦略。





●島田　剛　シェフ紹介

★　第４８次日本南極地域観測隊に参加、「越冬シェフ」として活躍。
★　よみうりランドのジュエルイルミネーション期間における
「フードコート」を完全プロデュース2011年11月11日～2012年3月11日

【 STEP 7 】　2011年10月23日～24日

第5回　意見交換会　in 十和田

来年度の活動に向けてどう展開するか、各部があつまり、内容･事業額等について相談。

夜になっても熱い議論が続く。
みんな十和田を盛り上げたいという気持ちは同じ!

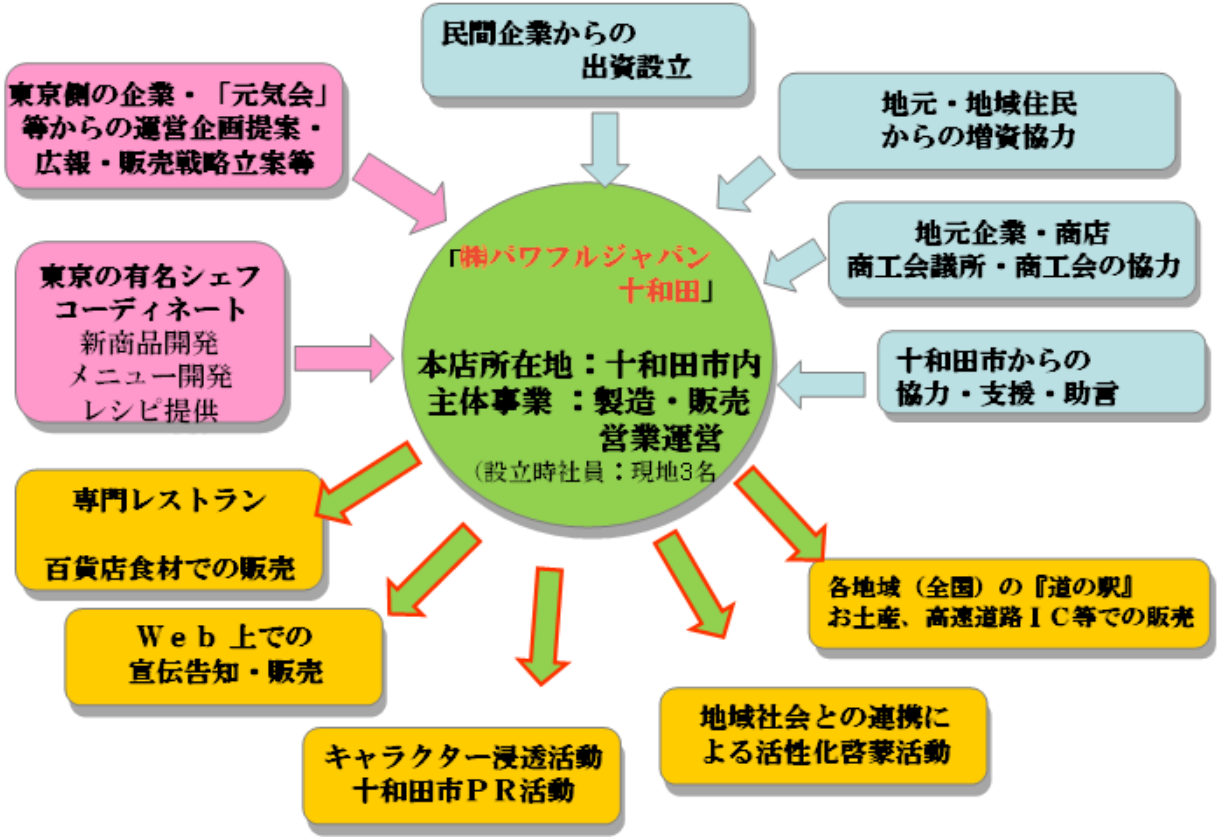
【 STEP 8 】　2011年12月13日～14日

第6回　意見交換会　in 十和田

新会社設立のための打ち合わせ。

新会社による民間営利活動部分と、行政からの委託事業部分の考え方とすみわけ。

■ 地域資源活用販売戦略事業の業務委託
■ 緊急雇用創出事業の活用



【 STEP 9 】　2012年1月11日～12日

第7回　意見交換会　in 十和田

新会社設立登記･新年度予算に間に合わせるための打ち合わせ

【 STEP 10 】　2012年2月吉日

十和田市内に、新会社設立。　地元雇用　4名からスタート。

設立発起会では、お世話になっている市長と市議会議員の方々にも祝福いただきました。

株式会社　パワフルジャパン　十和田

The Official Portal of The City of Towada
十和田市

POWERFUL JAPAN
元気な日本をつくる会

【 STEP 11 】　2012年4月～継続中

十和田産品の「にんにく」「ごぼう」「長いも」「ねぎ」をモチーフにした「ゆるキャラ」を作成し、
あらゆる市内イベントに参加し、認知度をＵＰ。

青森県三村知事

日本テレビに出演
さまーず、亀梨さんと共演

■Youtube　(アカウント　pjtowada)
動画配信、70本以上、累計再生回数12,000回以上

■各キャラクターごとに、facebook、amebro、Twitter
活動の様子を日々更新。

The Official Portal of The City of Towada
十和田市

POWERFUL JAPAN
元気な日本をつくる会

【 STEP 12 】 2012年7月～10月

十和田市雇用創造推進協議会より

「地域活性化の為のイベントコーディネーター養成講座」の講師を受託。

6回の継続開催により、最終日には、実際に受講生でイベントを実施しました。

■講義開催 ①8月27日 ②9月11日 ③9月21日 ④10月12日 ⑤10月19日

■実践開催 ⑥ 10月21日開催： **「ザック・ザック・フェスタ2012 ～十和田の中心で○○○と叫ぼう～」**

市の中心施設の大駐車場で開催
(行政との連携)

電撃ネットワークさんを招致
(楽しみを作り出す)

地元の高校生・大学生との連携
(若い人達を活性化に巻き込む)

十和田産品の大鍋1000食分
(新しい料理の提案)

【 STEP 13 】　2012年4月～継続

十和田産品を使った新しい商品開発

●十和田　竹炭黒カレー

●Dream Sweets　Box

● JEWELRY PICKLES

地元のスーパーマーケット、お土産センター、道の駅の他に首都圏で取扱開始。

【 STEP 14 】　2013年4月～継続

新年度をむかえるにあたり、十和田市の抱える課題として6次産業化の推進というテーマがありました。

各県には、6次産業化サポートセンターが配置され、6次産業化を目指す農林漁業者の支援を行っておりますが、地域によって様々な特性が違う為に、十和田市独自の啓蒙活動やステージごとの推進支援、案件発掘活動を実施する事が必要と考え、「6次産業化促進支援事業」を行う事になりました。

地域の農林漁業者を対象として、ステージを3に分け、それぞれに必要な支援を行います。

① 一般従事者の方・・・・・・・・・・・グループワークによる意識改革と継続的な勉強会開催。
② 6次産業化に興味のある方・・6次産業化のメリットと取組み方を学び、取組支援を実施。
③ 6次産業化を目指す方・・・・・・総合化事業計画の策定支援と商品開発、販路開拓支援。

いづれの勉強会や各支援においては、よくありがちな単発開催ではなく、従事者の顔を見ながら、ステップアップできる仕組みを考えたスケジュール構成により成長産業としての位置づけである農林漁業の改革と推進を今年度から支援させて頂きます。

デーリー東北　H25 年 6月 2日(日)

生産―販売まで一貫6次産業化

十和田市 推進に本腰

段階に応じ事業者支援

十和田市は2013年度、農林水産業の生産から加工、販売まで一貫して手掛ける6次産業化の推進に向け、事業者の支援を強化する。勉強会や事業計画書作成の手伝いといった個々の取り組み段階に応じ、きめ細かく継続的にサポート。国から認定され、手厚い補助を受けられる事業者を増やす狙いだ。

6次産業化の促進は小山田久市長の公約の一つ。13年度当初予算で、特別枠として1160万円を計上した。

国が11年に制定した「6次産業化法」では、事業計画の認定により商品開発や加工設備の設置などで補助を受けられる。同市は生産量日本一のニンニクを筆頭に農畜産業が盛んだが、国の認定を受けているのは農事組合法人の1件にとどまる。

一方、県内では5月末現在で46件が認定され、取り組みが拡大中だ。市とわだ産品販売戦略課は「遅れ気味の6次産業化を進め、農家の所得向上につなげたい」としている。

市の支援事業は、事業者を①取り組んでいない②関心は高い③具体的に取り組んでいる―の3段階に分類。①はメリットを理解してもらう勉強会、②では事業の企画立案や開発に掛かる経費の助成を中心に展開する。

③は1～2年以内の認定を目指し、国に提出する事業計画書の策定をサポート。認定後を見据えた経営についても助言する。

国の認定を受けた6次産業化プランナーで、市の支援事業を受託した須田憲和さん（東京）は「単発のセミナーを開催する自治体は増えてきたが、継続した支援は珍しい。成功すれば先進事例になる」と強調する。

このほど生産者14人を対象に市内で開かれた勉強会では、須田さんらが講演。ナガイモやニンニクを育てる農家の男性は「6次産業化には興味があったが、何を作れば良いか分からない。ノウハウを学べれば」と意気込んでいる。

（岩淵修平）

十和田市が主催した勉強会で、6次産業化に向けてアイデアを出し合う参加者
＝5月27日、同市